

令和3年第4回日光市教育委員会会議録

- 1 日 時 令和3年4月22日(木) 午後2時02分開会
- 2 場 所 日光市役所本庁舎2階203会議室
- 3 出席者 教育長 齋藤孝雄
出席委員 委員 高井孝美
委員 手塚美智雄
委員 池田由美子
委員 藤本亮純
委員 速水茂希
- 4 説明員 教育次長 鈴木伊之
学校教育課長 和気一夫
生涯学習課長 佐藤育宏
文化財課長 福田昌浩
スポーツ振興課長 鶴見英明
国体推進課課長補佐 齋藤良介
中央公民館長 鷹箸正
日光公民館長 常盤紀生
藤原公民館長 齊藤光伸
足尾公民館長 尾崎聡
栗山公民館長 小松正明
学校教育課副参事兼教育指導係長 鈴木久子
- 5 書記 学校教育課教育総務係長 湯澤智則

6 議 題

(1) 提出議案

議案第22号 日光市奨学金の貸付者について

(2) 報告事項

①教育長からの報告

②事務局からの報告

- ア 令和3（2021）年度日光市歳出予算について
- イ 日光市立小中学校の適正配置について（現状報告）

（3）教育委員からの提案事項

（4）その他

①次会開催予定

日時：令和3年5月13日（木）午後1時30分

場所：日光市役所本庁舎2階202会議室

日時：令和3年6月24日（木）午後3時00分

場所：日光市役所本庁舎3階大会議室

7 会議の概要

【教育長】

午後2時02分、開会を宣言し、会議録の署名人に、手塚・池田両委員を選任した。

日程第一 前会会議録の承認

【教育長】

前会会議録を確認し承認を得た。また、会議の概要をホームページで公開することの確認を得た。

日程第二 審議事項

【教育長】

議案第22号 日光市奨学金の貸付者についてを議題とし、事務局の説明を求めた。

【学校教育課長】

【説明要旨】

「日光市奨学金の貸付者について」10名の申請があり、必要書類が提出され、要件も認定基準を満たしていることを説明した。

【教育長】

説明終了後、質疑を求めたが質疑はなく、委員各位の賛意確認後、議案第22号は、原案どおり承認した。

日程第三 報告事項

①教育長からの報告

【教育長】

【報告要旨】

各学校の様子等について

児童生徒の様子から

- ・ 新年度始業式及び小中学校入学式について
- ・ 各種大会等開催予定について

教職員関係

- ・ 日光市校長会役員組織について
- ・ 日光市教頭会役員組織について

市長部局関係

- ・ 故大嶋一生市長市民葬について

【教育長】

報告終了後、質疑を求めたが質疑はなかった。

②事務局からの報告

【学校教育課長、生涯学習課長、文化財課長、スポーツ振興課長、国体推進課課長補佐、中央公民館長】

【報告要旨】

・ 令和3（2021）年度日光市歳出予算について、各所管課より主要事業と新規事業の内容について報告した。

【学校教育課長】

【報告要旨】

・ 日光市立小中学校の適正配置について、豊岡中学校区、日光中学校区及び栗山中学校区における現状の取り組み状況について報告した。

【教育長】

報告終了後質疑を求めた。

【委員】

適正配置の対象には挙がっていないが、併設となっている三依小中学校について、生徒数の変化は今後どのようになるか教えて欲しい。

【学校教育課長】

詳細な資料が手元にないため具体的な数値は答えられないが、三依小中学校についても児童生徒数は減少傾向にあるのは事実である。今の基本的な考え方では、中学校区を基本として、旧市町村単位をまたいだ統廃合は想定していないのだが、今後は栗山地域と藤原地域、日光地域と足尾地域といったように、地域をまたいだ統合というのも早急に進めていかなければいけない状況にあると考えている。そのため、今後計画の見直しも含めて地元等の意見を聞きながら進めていきたい。

【委員】

適正配置について、日光中学校区の6割強が東中学校区との統合を希望しているというのがよく分からなかったのだが、これは何か理由があるのか。

【学校教育課長】

東中学校に行きたいということではなく、東中学校区の学区内にある日光小学校と統合したいということである。小学校の統合については中学校区単位で検討しているため、日光中学校区では清滝小学校と安良沢小学校の2校統合ということをベースに検討を始めたのだが、複式学級の解消にならないことから、小学校については隣の東中学校区の中にある日光小学校と統合したらいいのではないかという意見が、6割くらいということである。中学校については、部活の問題など様々な問題があり、統合については反対というよりも、課題が多いだらうという意見が多く出ている。

【委員】

日光中と東中の中学校統合は難しいということか。

【学校教育課長】

実際、新たな中学校を建てることも難しく、地域的なことを考えれば東中学校のほうに行くのが望ましいのだが、学校名や校歌の問題といったものの擦り合わせには結構な時間を要すると考えられるため、小学校の統合を考えながら中学校を併せて考えていくことが難しい状況である。

【委員】

日光中学校自体は生徒数が減っているのか。

【学校教育課長】

日光中学校でアイスホッケーをするために学区外から通う子がいるので、小学校ほどではないが、生徒数が減少していることに変わりはない状況である。

【委員】

中学校に関しては、複式学級が生じて合併を考えるという段階ではないということか。

【学校教育課長】

中学校に関しては複式学級という制度はないのだが、かなり少なくなっているのは間違いない状態である。どこまで減ったら学校が維持できなくなるか、という判断基準は難しいところだが、少人数校として今後成り立つかどうかというところを、地元でも心配されている状況にあることは間違いない。

【教育次長】

日光中は一学年10名程度、全生徒数30名弱である。

【委員】

安良沢小、清滝小が日光小と合併することになれば、純粋に学区として日光中に入ってくる小学生はいなくなり、他地区からのアイスホッケーの生徒だけでは、当然成り立たなくなっていくのではないかと思うのだが、中学校区の合併についても、併せて検討するということか。

【学校教育課長】

現在は日光中学校区の検討会で、小学校の統廃合について検討している状況である。この検討会の中で、小学校が日光小学校との統合と決まると、一つの小学校に対して中学校が二つという状況になることから、今後東中学校との検討を進める必要が生じた場合には、東中学校区の関係者も含めた、新たな検討会を立ち上げる必要があるだろうと想定している。そのため、日光中学校区の検討会の中で、東中学校との統合が決められるという状況ではないため、課題の整理と検討を行いながら、将来の方向性を見いだしていくことになる。

【教育次長】

補足だが、学校教育課長の説明のとおり、現在の日光市内の小中学校適正配置の元になっているのは、平成28年6月に策定した基本方針である。そこでは、現在の中学校区を活かし、中学校区内での小学校統合や、中学校と小学校の併設といった考え方をベースにしており、それは平成28年時点で向こう10年間くらいを見据えて策定されたものである。しかし、現状は少子化が当時の想定以上に進んでいるということ、以前は当たり前であった、地域の小学校から学区の中学校に進学するという流れが、部活動の関係やいろいろな要因から学区外の中学校に通うケースが生じており、市外に出てしまう場合や、日光中学校のようにアイスホッケーを目的に、他の地域や日光市外からも通学する生徒がいるなど、当初の予想から変わってしまってきている。また、単独の中学校区だけでは中学校と小学校を合わせても、成り立たなくなるということが現実に発生しており、今後もそういうところが出てくると考えられるので、こうした現状に対応するためにも、現在の基本的な考え方の見直しを少し図り、二つの中学校区の統合といったことも含めて検討しながら、その中で具体的に各地域の検討課題というものを、同時並行で進めていくというようなことになると考えている。

【教育長】

そのほか質疑を求めた。

【委員】

今アイスホッケーの話が出たが、5年以上前から部活動とするか、クラブとして成り立たせ学校から離すかという議論がされているが、日光中と東中での統合ということが今後課題になった場合、そういうことも議論が必要なのではないか。以前文科省の研修会に行った際に、中体連との大会の関係について調整を進めていくと言っていたが、結局5年経った今でも進展具合が自分の耳に入ってこないのも、その辺も必要であれば日光市のほうから、県や国に要望を出す必要も出てくるのではないかと思うのだが、そういった点に対しての検討というのはどうなっているのか聞きたい。

【学校教育課長】

部活動改革については、国のほうである程度方向性とタイムスケジュール的なものは示されてはいるのだが、県からは具体的なスケジュールは示されていない状態である。もともと文科省が進めたのは、学校の働き方改革に伴う部活動改革というものであったが、少子

化も含め、学校だけではなく地域も巻き込んで一緒に進めていかないと、中学校のスポーツというものが成り立たなくなってくる状況も考えられるため、日光市としても今後スポーツ振興課と連携を図りながら、内部で検討を進め、更に地域の統合型スポーツクラブの運営者の意見も聞きながら、今後実際にどういったことができるかの検討に着手していきたい。

【教育長】

そのほか質疑を求めたが質疑はなかった。

日程第四 教育委員からの提案事項

【教育長】

教育委員からの提案事項について意見を求めた。

【委員】

昨年度の県への要望事項の中に、特別支援学級に関することがあったと思うのだが、その中にあった担任教師の高齢化というのが気になっていて、もし差し支えなければ、今年度日光市内小中学校の特別支援学級がどのような種別でどれぐらいあるのか、担任教師が県の正式採用なのか臨採なのか、もし分かれば何歳代なのかと、在籍する児童生徒数及び通級している子供の数も分かれば教えて欲しい。

【学校教育課副参事】

質問の回答については、正確な数値が手元にないため、次回の教育委員会会議で報告することでよいか。

【教育長】

次回報告とさせてもらいたい。

【委員】

予算の資料に関して、これは教育委員会会議で承認を得て、議会に提出されるのか。

【学校教育課長】

議会については2月、3月の定例会で議決されており、今年度決まっている予算の報告である。

【委員】

去年の額からの増減などの比較は分からないのか。

【教育次長】

今回提示した資料は、前回の教育委員会会議の報告事項の詳細説明であったと思うのだが、その前段として、昨年11月の総合教育会議で令和3年度の予算編成に向けた各施策の考え方と、関連事業関係の説明をしており、それらの結果として予算付けされたものが今回の予算資料の抜粋になっている。そのため、予算的なものは全部網羅されていると思うのだが、前年度の比較については記載はない。重点事業や新規事業については今回各担当課から説明があったが、前年度との比較で拡充や縮小されているかが分からないので、改めて何か示せばと思う。

【委員】

市長の言葉にもあるとおり、市の財政が厳しいなか、いろいろ考えなくてはならないだろうが、教育に関しては簡単にカットしていくことはできないと思う。2年近くコロナでいろいろな行事もできず、運営の仕方が変わって改めて意識も変えなくてはならない点もあり、本当に削減して良い事業や、人件費や設備費など簡単に削れない部分といった点を、もっと分かりやすく皆で検討する場があると良いと思う。

【教育次長】

委員指摘のとおり、市の財政状況のひっ迫とコロナ禍という大きな要素がある。令和3年度の予算の特徴としては、コロナ禍で令和2年度に中止や見送りとなってしまった、生涯学習、公民館関係の講座やスポーツ大会などについて、コロナ対応を考慮したうえで必ず実行できるものについては、予算付けされているが、見通しが立たないものについては、基本的にはゼロベースの予算付けになっており、例年どおりや例年と時期をずらして実施できるという方向性が見えてきた時点で、予備費や補正予算による予算付けで対応をしていくという方針になっている。そのため、事業によっては前年度に比べ大幅に減額されているものや、それとは逆に、今年度は国のコロナ対応の交付金という、別建ての財源、具体的には学校での消毒関係などコロナの感染予防に必要なものや、経済対策で支援しなければならないものについては、予算が通常よりも多く付いているといった状況がある。

【委員】

先日の新聞に学校や体育館のLED化の記事があり、少し分からない点があったのだが、光熱費などが削減されることで事業費が賄えるような感じの書き方だと思うが、それは普通に当たり前のことなのだと思うのだが、これは何か特別なしくみがあるのか。

【教育次長】

これは、市の企画部門で幅広く取り組もうとしている、民間提案の活用事業というものののだが、民間会社に行政の仕組みや事業に対し、予算の縮減が図れるような提案をしてもらい、採用された事業の一つである。具体的には、照明の器具を施工納入する業者が自社の製品を使いLED化を進めることで、通常予算付けのペースで10年、15年かかるところを5年、8年という短期間で整備でき、なおかつその後の維持コストも安く済むことで、トータルでの行政負担を少なくできるという提案を受け、それを採用したものである。

【委員】

早くLED化したほうが電気代も安く済み、元が取れるという提案があったものを採用したということか。

【教育長】

そのほか意見を求めたが、意見はなかった。

日程第五 その他

【教育長】

次会の会議は、令和3年5月13日（木）、午後1時30分から日光市役所本庁舎2階202会議室、6月の会議は令和3年6月24日（木）、午後3時00分から日光市役所本庁舎3階大会議室で行うことを確認した。

午後2時52分閉会